

# グラントワ応援団通信

平成24年

11月24日発行

第33号

## ヴェルディ「レクイエム」に参加して

グラントワ合唱団 藤原映子

達成感♪56才の私がかんなに満足した、充実した時を迎えられるなんて。指揮者のタクトが天を指し、曲が終わり音が静まった時、こみあげた気持ちです。

今思えば、楽しかった7か月間。3月17日に重く分厚い楽譜本を手にとりCDを聴いた。どこを歌っているのかさっぱりわからない。なんてものに参加したのだろうか。私ではムリだ・・・。それしか浮かばなかった。知っているのは映画『バトルロワイヤル』で使われている「怒りの日」。初回は重い気持ちだった。二回目は自分のパートの練習、練習区切りの付箋貼り。その後からの音とり、ラテン語の発音、意味。一つ一つ地道に教えて下さった先生方、音とりCDを作って下さったスタッフの方や合唱団メンバーの方。おかげ様で何とか前を向いて始まりました。

週一回の練習から、二日続く集中練習。十月には千葉県への二泊三日の合宿にも行かせてもらい、いつのまにか「レクイエム」に浸り込んでいました。九月中旬頃から、堅かった本も柔らかくなり、言葉や音が頭の中に常になり、自然と出てくるようにまでなりました。色んな地区から「レクイエム」に集まり、顔見知りになり家を留守にする時の献立などを交換しながら一体感が高まりました。家人もいつもは寝そうな感想なのに、「今回は良かった」と、言ってくれました。家族を巻き込みながら、協力してもらって感謝しながら、心おきなく参加させてもらいました。あと少し観客が多ければ良かったなと思えましたことです。

## 東京スカイツリー 見物記

情報発信ボランティア

飯塚 哲也



9月某日 6か月前からの予約で確保した展望台の入場券(30名)で見物をして来ました。

全国からはせ参じた同窓生30名。前夜の雨も上がり好天。浜松町近くの「日の出棧橋」から船(クルーズ)で出発。東京湾をのぼり、隅田川に入り、浅草までのクルーズ。ちよつと離れた 距離からの、ビルの合間に見える「スカイツリー」を眺め、写真に収める。左岸にある「浅草」に到着。東武電車浅草から河を渡り、ひと駅(3分)で東京スカイツリー駅に到着。徒歩で約5分で 入口へ。そこに見慣れた「石でできた大きな彫刻」が目に入りました。それはグラントワセンター長である澄川喜一氏の有名な「そのある彫刻作品」でした。私は 同行した友人達に作品のこと、澄川喜一氏のことを一生懸命に得意になって説明しました。

案内嬢の指示に従い、まず4階まで上がり、そこから高速エレベーターで展望台(350m)へ。50秒で到着。速い。明るい、広い、丸い展望回廊です。眼下のビルは小さく見えて、「高いなー」という第一印象。すぐ下は隅田川、浅草が見えます。東京ドーム、東京タワーは確認できました。遠くに目をやれば 羽田空港、千葉の房総半島もぼんやりですが 眺められます。この地は昔の「武蔵の国(634)」、関東一円を見ることができません。富士山は雲がかかり、確認できず 残念でした。平日というのに押し合いながら 展望台を2周して 案内に従い 5階まで降ります。そこからは お食事処、お土産処でばかりです。集合時間まで 三々五々 充分楽しみました。1階に降りると 澄川先生の作品の前に出ました。当日の 万歩計は約7,000歩でした。疲れましたが、それにも増して、楽しい思い出になりました。

センター長「澄川喜一氏」監修のスカイツリーと入口にある彫刻作品は大変身近に感じる 文化的・芸術的作品であるとと思いました。

## グラントワと地域

情報発信ボランティア 洗川光廣

グラントワの建物は、回廊が街中の文化街通りのように、劇場・映画館・美術館・レストラン・多目的広場など文化の香り漂う、非日常的な建物、空間は、刺激的な雰囲気となっている。

その建物の回廊が駅前市の街地、市の中心地域、駅前通りに通じている。

その駅前通りの地域が現在開発進行中で、益田市を中心市街地として文化の香り漂う地域として生まれ変わるうとしている。

この辺りを通る度に変化している街の様子を見るのは楽しみである。

先日、久しぶりにグラントワに行く機会を得たのは、秋好正也画伯60年画業の個展が多目的室で開催されると案内状をいただいたからである。

先生は教職時代から今日まで油絵一筋の画業60年、素晴らしい個展、大作の「漁夫」の連作が目を惹いた。外遊された時の「トレドの丘」の作品、印象的でした。齢83歳まだまだお元気で来場者に応対される姿には感銘を受けた。

石見美術館では、企画展・東京芸

大美術館所蔵の日本近代美術の名品展・森鷗外と米原雲海を中心に・や澄川喜一館長の彫刻展が開催されていた。企画展では、鷗外が明治22年開校の東京美術学校で教鞭をとっていたことが記されていた。展示作品の中に原田直次郎の「靴屋の親爺」・黒田清輝の「婦人像（厨房）」

「ポプラの黄葉」・日本画では、狩野芳崖の「岩石」・彫刻では、米原雲海の「橋本雅邦像」木彫・内藤伸「獅子」木彫等があり、名品の奥深い感情表現の技を鑑賞した。

また、澄川喜一館長の彫刻展は、久々に出会った感じで鑑賞した。

先生の木彫作品は、松江市の県立美術館に所蔵されていて、学生時代に会った強い記憶があった。

今回、久しぶりに鑑賞させていただき、近作の、単純化された鋭い面の反り、空間を切る尖った線は、怖い凄みを見せていた。ありがとうございました。

名品は、作品に作者の思いが込められていて、対話し、聞き、読み解く、面白さがある。見ていて飽きない、不思議なエネルギーが、込めら

れていてそれが伝わってくる。

グラントワにある芸術文化の本物の味は、地域の人々が味わい、日常生活の中で美術や音楽、演劇、文学等に感心を持ち、その奥深い世界を知る。そのことで、自分への新しい刺激として、この地域の文化力を高め深めることにある。

グラントワの果たす役割は大きく石見地域の文化の伝道館としてこれからますます益田市を中心に周辺地域の発展に貢献されるであろうと思っている。

あ と が き

九月、残暑の日の夕刻近く、細君の父親の四十九日の法要を終え自宅に休んでいましたら、珍しくも男女高校生二人が我が家を訪れました。江津の石見智翠館高校の生徒です。十一月四日に益田で初めての吹奏楽部定期演奏会を、大ホールのキャパ千五百人のグラントワで開催するという事で、当地では知名度に不安もあり集客を心配し市内をチケット販売に回っているようでした。大ポスターを掲げ見せてくれた二人のそんな姿に音楽好きの私は即、協力しました。

まだ、ヴェルディのレクイエム演奏会の余韻さえ残る中、先日コンサートに行ってきました。演奏のレヴェルは高く安定していて、期待以上の見応え・聴き応えでも満足できました。それに至るまでの、青春真只中の智翠館高校の生徒たちの日頃の練習や催しの周知活動などの懸命な姿が脳裏に髣髴として感激は倍加。若いつていいですね。日常の周辺でも、テレビなどのメディアでも、若い人たちが目標を持ち励む姿を見ると本当に嬉しく、その輝きにこちらも活力を与えられます。グラントワでのリピートが待ち望まれます。その節は是非、足を運んでみてください。

(陽竈)

